

## 2026年6月ハイパーカレンダーレポート

### 📖 学び直しと現場の実践のあいだで

2025年度が始まり、私は入社5年目を迎えた。社会人としての経験を積む中で、「学び続けること」の重要性を日々感じている。その思いから、今年度より、放送大学に入学し、心理学や教育学の分野を中心に学び直しをスタートさせた👉

仕事と勉強の両立は決して楽ではないが、日々の業務と学びがつながる瞬間も多い。例えば、ワークショップの設計・企画をしていく際に、教育や課題解決の知識が活かされたり、ファシリテーターを務める中で、新たな視点を持ち込めたりする。情報学や問題解決、教育に関する知識はもちろん、AIと人との関係性を考えるうえでもヒントになることが多く、日々の業務の中に「学びの実感」があるのが面白いところだ。また、国際理解の講義をきっかけに、これまであまり関心なかった政治にも興味を持つようになった。知識の幅が広がるだけでなく、視野や考え方そのものが変わっていくのを感じている。

### 🚀 おおいた AI テクノロジーセンター、6年目に突入

おおいた AI テクノロジーセンターは、今年度で活動6年目を迎え、6月末にはキックオフイベントを開催した。私が入社した当初はまだ「AIって何?」という声も多く、説明会やイベントでも「ロボットとの違いは?」といった反応が少なくなかった。今では、県内の学校や企業、自治体でAIをテーマにした研修や勉強会が普通に行われるようになり、「AIを身近なものとして考えられる空気」が大分の中に少しずつ育ってきたと感じている。そして何より、AIセンターの活動を続けていくなかで、最も嬉しいことは「人と人のつながり」が自然に生まれていることだ。例えば、インターンを通じて知り合った高校生が進学後にイベントで関わってくれたり、一度研修会に参加してくれた学生がその後も積極的に活動してくれたり、Oita AI Caféを通して、企業と学生や異業種間での交流が生まれたりと、こうした出来事は、AIの普及という側面ももちろんだが、人の輪が育ってきたという実感にもつながっている。

今後は、「AI エージェント」や「デジタルヒューマン」といった、まだ深く取り組んでこなかったテーマにもチャレンジしていきたい。AIセンターとしても、AIの最前線の知見を取り入れ、新たなプロジェクトを生み出していきたい。AIセンターとしても、最新の技術や考え方を柔軟に取り入れながら、新しいプロジェクトや連携をどんどん形にしていきたいと考えている。これまでのつながりを大切にしながら、これからも「地域に根ざした AI 活用」と「学びの循環」をキーワードに、日々の実践と学びを積み重ねていきたい💡

(文責:坂口萌々子)